

2022年度プロジェクト評価に伴う意見書

2023年7月19日
国立天文台プロジェクト評価委員会

国立天文台長 殿

科学研究部を対象とするプロジェクト評価（国際外部評価）を2023年3月2-3日に三鷹キャンパスで実施しました。本委員会の下に設置した外部評価委員会がとりまとめた外部評価報告書を提出します。さらに、本委員会における同報告書の審議結果を踏まえ、国立天文台全体として考えていただきたい意見を以下にまとめます。外部評価報告書とあわせてご検討いただきますよう、よろしくお願いいたします。

外部評価報告書 P4 (3.1.4)

Has the Division conducted research leading to delineating the direction in the future planning of astronomy and contributed to NAOJ's future planning from a scientific point of view?

- DoS is missing a coherent research strategy that aligns with both NAOJ and Japanese astronomical research more widely.
- ... it is also important for the DoS to listen to input from the wider community through a Research Strategy Committee or any other channels, ...

に関連して、科学研究部に以下の役割を期待します。

・科学研究部は、「個人の自由な発想に基づく研究を花開かせ、世界第一線の天文学研究を行うこと」を目標に掲げ、国立天文台内のグループ+ α でアクティブに成果を出しています。しかし、科学研究部内で個人の研究を進めるだけでなく、台内の様々なプロジェクトを推進するにあたって支援や提案を行うなど、国立天文台全体に対してポジティブな影響を与えて、研究活動を牽引するような役割を期待します。

科学研究部の設置後、すばる・アルマ等と連携した研究員公募や共同セミナーの定期開催など、プロジェクトや研究部の枠を超えた取組がみられます。このような活動を今後さらに期待します。

・さらに科学研究部には、国立天文台の様々なプロジェクトのみならず、大学共同利用機関として、日本全体の天文学・宇宙物理学を引っばっていく、もしくは駆動するなど、良い影響を与えるような貢献を期待します。

マルチメッセンジャー天文学では、科学研究部が国内外の研究者をまとめてより良い成果を上げるためのチーム作りに貢献する動きがみられます。他の分野でも、科学研究部がより多くの研究者を惹きつけ、台外のグループまで束ねて、さらに大きな形で日本の天文学の発展を駆動するハブのような役割を担うことを期待します。

以上